

「企業戦士=産業報国戦士」への地獄の道

味当編の奴隷から

『企業人教育』を粉碎しよう

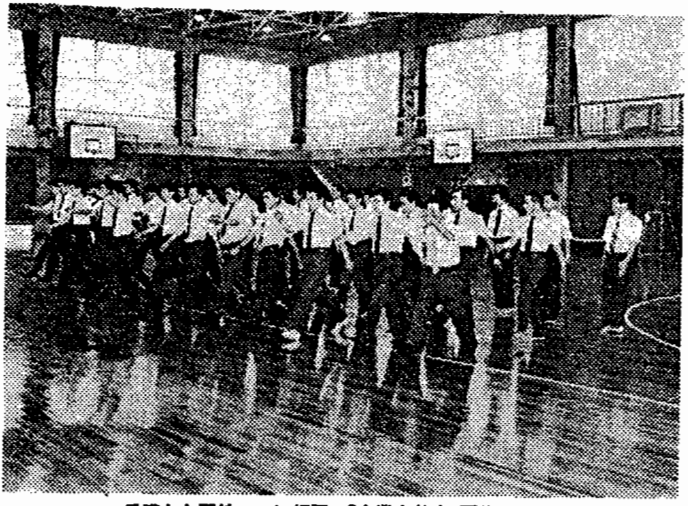
労組解体「戦争体制づくり」
国鉄当局が四月下旬から行ってきた「企業人教育」なるものの実態は、まさに「マル生教育」そのものであり、当局の意のままにポロポロになるまでこき使われる奴隷となるための思想教育としてやられているのである。その「マル生教育」企業人教育」に動労革マル・松崎は組合員を積極的に応じさせて「教育」を受けることによって新社会へいけるなどの幻想をあおっている。身も心も売りわたせと強要し、組合員を奴隷の道にひきずりこむ松崎を許してはならない。

講師は富士学校出身

この「教育」の目的は「親方日の丸意識を払拭し、意識改革を進め、企業人としてふさわしい考え方と行動力を身につける人材の育成」としている。

「教育」は「地獄の特訓」といわれる富士宮管理者養成学校をでた講師によつてすべて軍隊調で行われる思想教育はまさに「マル生運動」の再現である。

あの「マル生運動」が、まず現場長以下の下級職制を「国鉄再建を担う者」とおだてあげ、研修と称して学園に集めて教育する。その内容は「精神訓」を大声で唱えさせ「時代は変った。合理化に反対したりストをやったりする労働組合を脱退し、鉄労へ入れよう」などとの意識改革を行い、次には一般職員を教育にひっぱりこむ、また、教育終了者の職制を中心「〇〇会」などをデッチあげ組合活動の妨害、鉄労への集団脱走を行う組合破壊攻撃が行われたのだ。



受講した国鉄マンに好評の「企業人教育」研修風景

『教育受けただけではダメ』

現下のマル生教育としてある「企業人教育」においても講師は「教育を受けたからと言ってそれだけではダメ、具体的成果(非番・公休、家へ帰ってからも増収活動を行う等)をあげなければダメだと労働者を徹底的にこき使い「残れる、残れない」などと恫喝してきている。

労働者は、生活と権利を守るために労組に結集し、団結し、たたかいぬいてきた。それを放棄する労働者のたどりつくところはまさに地獄しかないのだ。

動労革マル分子は「企業人教育とは新事業体において引き続き活躍を期待する人材の育成」などとタブラかして地獄に組合員をつき落そうとしているのだ。

ひまがなれば、体育館に集まって、軍隊分列行進のくり返し。号令するごと、号令のすまに、右、左へと動くこと、が「企業人」の神髄。全組合員の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！



軍隊式直立不動で大声で「研究成果」の発表式 (於・東北学園)



絶叫、また絶叫の『坪内学校』(四国)

とにかく、ちんぽもいからガッパロー!!

国鉄「分割・民営化」阻止 / 三里塚二期着工粉碎!